

地域医療
支援病院災害拠点
病院地域がん
診療連携
拠点病院

患者サポートセンター広報誌

九州労災病院

九ラブハロー Kyuro Hello!

2026

理念

地域住民と勤労者の皆様に、良質で安全な医療を提供します。

基本方針

- 患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の医療を提供します。
- 地域医療機関との連携を重視し、中核病院として高度専門医療を担います。
- 働く人々の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
- 患者さんに寄り添う心と、高い技能を兼ね備えた医療人を育成します。
- 経営基盤が安定し、働き甲斐のある病院づくりを目指します。



2026.January vol.105

謹んで新春のお慶びを申し上げます

皆様、新年あけましておめでとうございます。

いま、日本全国の病院が、かつてない経営危機に直面しています。人件費や物価、医療材料費の高騰に加え、診療報酬の伸びがそれに追いつかず、多くの急性期病院が赤字を余儀なくされています。地域から病院が姿を消す— そのような危機的な現実が、目前に迫っています。

こうした状況には、各病院の努力だけでは解決できない構造的問題が横たわっています。「財政健全化」というスローガンのもと、医療や介護は長らく「削減すべき費用」として扱われてきました。医療費を抑制するための政策が積み重ねられてきた結果、医療機関は今、存続の瀬戸際に立たされています。

一部には「医師の給与を下げればよい」「赤字の病院は不安だから受診しない」といった声も聞かれます。しかし、医療は単なるサービス産業ではありません。地域社会の安全と安心を支える公共インフラです。医療者が心身ともに健全な状態で働けてこそ、良質な医療体制は維持されます。いま問われているのは、目の前の経費削減ではなく、「医療を社会全体でどう支えるか」という視点です。

にもかかわらず、財務省による財政危機のプロ

パガンダが長年にわたり国民意識に浸透し、診療報酬の引き上げや医療支出の増加に対し、漠然とした不安や抵抗感が根強く残っています。ようやく政府も危機の深刻さを共有し始め、高市政権は“責任ある積極財政”を掲げ、補助金や財政出動を含む支援策が検討されつつあります。

そのような中、当院は地域医療構想に基づき、やむを得ず病床削減を進めながらも、急性期病院としての機能を守り抜く覚悟です。救急、手術、リハビリテーションなど、地域の皆さまが必要とするときに、確実に応えられる体制を維持してまいります。

医療を支える力は、行政や医療者だけでは十分ではありません。地域の理解と支援があってこそ成り立つものです。どうか、この現実を共に見つめ、地域医療を未来へつなぐ仲間として、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

困難の中にも、希望は必ずあります。私たちは決してあきらめず、これからも地域の健康といのちを守り続けます。

院長
三浦 裕正

● 眼 科

部長 森田 啓文



丁寧な診療で満足度の高い医療を目指しています

現在、森田 啓文と渕野 仁志医師の常勤2名で診療しています。

外来診療体制について

紹介状をお持ちの患者さんは、月～金曜日午前中に診察しています。受付時間ですが、手術日の火・水曜日は10時受付終了、月・木・金曜日は11時に受付終了です。なお、麻酔科の常勤医が不在のため、全身麻酔の手術枠（予定手術）は第1水曜日午後のみとなっております。午前再診の患者さんと月・木・金午後の特殊再来（加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫や糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体内注射、レーザー治療や眼底造影検査など）は予約制となります。

外来診療内容ですが、白内障、加齢黄斑変性などの網膜硝子体疾患のほか、眼科疾患全般の診療を行っております。検査は光干渉断層計（OCT）、マルチカラー共焦点走査型レーザー検眼鏡（NIDEK社のMirante）、前眼部OCTのCASIA、視野検査（ハンフリー視野計、ゴールドマン視野計）など揃っております。また眼球運動検査（HESS試験）、複視

野試験、網膜電図などにも対応しております。

入院診療体制について

定例手術日は火・水曜日で、午後に行っております。白内障手術は日帰り手術の他、入院希望の方は片眼2泊3日～3泊4日の入院が可能です。その他硝子体手術や緑内障手術も基本的には入院で行っております。

2024年度手術症例数

水晶体関連ですが、白内障手術（単独）は約430件、眼内レンズ強膜内固定は約10件行われました。網膜硝子体疾患の手術ですが、増殖糖尿病網膜症、裂孔原性網膜剥離、黄斑前膜、全層黄斑円孔、分層孔（内層黄斑円孔）、近視性の網膜分離症に対して行っており、昨年度は約65件を行われました。徐々に手術件数は増加しております。またあくまでも予定ですが、2026年4月より3人体制となります。

今後とも眼科をどうぞよろしくお願ひいたします。

● 高齢者看護のエキスパートとして

老人看護専門看護師 廣渡 大輔

昨年度より、専従看護師として、地域の高齢者とそのご家族及び病棟・外来患者さんの力になるべく、組織横断的に活動をしています。

年齢を重ねると病気だけではなく、身体機能の低下に伴い今までできていたことが困難になり、誰かに手を借りなければならぬことがあります。また、病気も慢性化しやすく、治療方法によっては身体的に大きな負担となることもあります。私たち老人看護専門看護師の役割は、様々な身体機能低下や病気を抱えるご高齢の患者さんとそのご家族に、高い水準の医療やケアを提供しつつ、最期まで患者さんご自身が持つ力を最大限に引き出し、その人らしく過ごしていただけるようお手伝いをさせていただくことを大きな使命としています。

ご高齢の患者さんが入院されると、本来の身体疾患の治療と別に認知機能低下・せん妄・転倒など多くの問題が生じてしまいます。私自身も以前は、転倒された患者さんに「動かないでほしいな」「落ち着いてくれないかな」と動かないでいただくことばかりを考えてい

ました。しかし今では、転倒したことは「患者さんにとって治療への前向きな一步を踏み出そうとされたこと」であると考えます。「トイレに行こうと思われたのか?」「鞄を取ろうとしただけなのでは?」「ご家族を探していただけでは?」「どんなことを気にされているのだろう?」。このように何気なく、患者さんを理解しようとする「対象理解」で高齢者看護の幅は大きく広がっていきます。

そのため、私は日々のケアの中でお話を丁寧に「聴く」ことを大切にしています。私を含めスタッフは80歳、90歳の老いの経験がなく、未知の領域です。そのため高齢者看護では分かったつもりにならず、真摯な姿勢で患者さんに向き合っていくことがとても重要になります。患者さんと目線をあわせて落ち着いて声をかけ、患者さんの反応を待ちながらきちんと丁寧に「聴く」、それが高齢者看護の始まりであると考えています。

今後もご高齢の患者さんやご家族が少しでも安心できるよう、また地域の皆さんのご要望やご期待に沿える高齢者看護を心がけていきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

こんな活動もしています

認知症ケアチーム・ 身体的拘束最小化チーム活動

チームメンバーである医師・薬剤師・老人看護専門看護師・作業療法士・医療相談員による視点からサポートを行うことで、認知機能が低下した患者さんへの、本来の身体疾患の円滑な治療を目指しています。週1回、多職種によるラウンド・カンファレンスや研修会の実施などを行っています。

認知症高齢者等への退院後訪問

入院中に認知症や認知機能の低下による症状が見られ、生活障害を抱えるご高齢の患者さんご家庭に、退院後に訪問させていただき、必要な支援と一緒に検討させていただきます。

アウトリーチ活動

他施設に訪問させていただき、より良い高齢者看護について一緒に検討を行っています。

もの忘れ看護相談外来

高齢者の3人に1人が認知機能に関わる症状があると言われており、多くの情報が溢れています。早期発見が可能となってきている一方で、不安を感じている方も少なくありません。外来において、「もの忘れが気になる」、「家族のこんな様子が気になる」、「(ご家族が)介護のため孤独だ、居場所がない」など、もの忘れや認知症によって、生活のしづらさを抱えるご高齢の方とそのご家族が抱える不安や困りごとを少しでも軽くできるよう支援を行っています。相談したいと思われたタイミングで対応できるよう心がけています。

教育活動

高齢者看護に関する市民講座、自施設・地域における現任教育、看護大学などの教育機関における教育活動を行っています。



九州労災病院地域連携勉強会 全国労災病院リハビリテーション技師会 九州ブロック研修会

1. 特別講演

演題 理学療法士が臨床研究を続ける意義とチームで育てる研究文化

講師 JA山口厚生連周東総合病院
リハビリテーションセンター 川端 悠士 先生

2. 一般演題 (九州地区の労災病院から計8演題)

日時: 令和8年2月28日(土)
13:00 ~ 16:30
場所: 当院3階講堂A

九労地域医療連携勉強会

○ テーマ:

排尿ケアと失禁関連皮膚障害
～おむつかぶれと別れさせ隊～

○ 講師: 皮膚・排泄ケア
特定認定看護師 杉本 美由紀

○ 日時: 令和8年2月19日(木)
19:00 ~ 20:00

○ 場所: 当院3階講堂A



独立行政法人 労働者健康安全機構 九州労災病院

〒800-0296 北九州市小倉南区曾根北町1-1
TEL 093-471-1121(代表)



九州労災病院
ホームページ



九州労災病院公式
Instagram

患者サポートセンター

患者サポートセンター STAFF

センター長 副院長 中島 信能

副室長 看護部長 田中 明子
医事課長 藤本 学

入退院支援部門 師長 岩崎 玲奈

社会福祉部門 M S W 坂出 友美／豊嶋 奈保子／林 知夏

地域連携部門 事務 服部 晴朗／二見 誠司／服部 真生／
田中 未奈／豊浦 弘美

看護師 毛利 恵／橋本 治予子

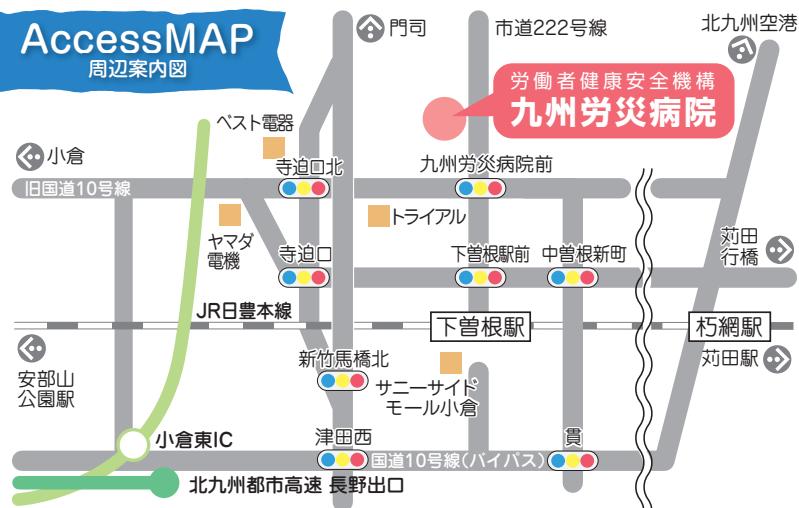
お問い合わせ先

入退院支援部門 代表電話 093-471-1121
社会福祉部門

地域連携部門 直通電話 093-475-9686

共通 F A X 093-473-5903
E-mail renkei.ren-k@kyushuh.johas.go.jp

AccessMAP 周辺案内図



診療案内

受付時間 午前8時15分～午前11時

救急受付 急患は24時間随時受け付けます

診療時間 午前8時45分～午後5時15分

休診日 土曜日・日曜日・祝日
年末年始(12月29日～1月3日)

**初診時
選定療養費** 7,700円
診療情報提供書のご持参をお願いしております